

自粛生活中に想うこと

5月28日から、アカデミー生がアスリートヴィレッジへ戻って来てから1ヶ月以上が経ちました。学校も例年通りの授業予定に戻りつつあり、アカデミー生も‘新しい生活様式’にも慣れ、生活リズムを取り戻しつつあります。

アカデミー生は新型コロナウイルス感染予防対策のため、4月8日から活動拠点であるハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)の利用が中止となった関係で、約50日間、アスリートヴィレッジを離れていました。

このアスリートヴィレッジを離れていた期間、様々なことを考えました。今回は、前回お伝えできなかった中学生の想いをアカデミー生自身の言葉でお伝えします。

【菅野 煌大 (中3:レスリング)】

今私が思う事は、これまでの生活が当たり前じゃないと言う事です。練習できて当たり前、学校に行けて当たり前、と言う生活の中で私は少し感謝の気持ちを忘れていました。ですが今コロナウイルスが流行し、今までの生活が嘘みたいな生活をしている中で当たり前は幸せなんだと言うことに改めて気づきました。

これからは感謝の気持ちを忘れず生活していきます。そして夢へ向けて努力していきます。(4/25)

【ガレダギ 敬一 (中3:レスリング)】

今、私の状況はNTCが使えなくなって家で筋トレや自分のできることをやっています。思いっきり練習が出来なくて辛いですが皆おなじだと思います。しかし、もしかしたら体をケアして鍛え直すチャンスだと思います。なので今自分がなにをしたらいいか考えてこれから先の試合に向けて自分なりのトレーニングをしっかりとやり、将来のオリンピックで優勝という目標に向かって頑張っていきます。(4/25)

【西田 葵 (中3:ライフル射撃)】

現在、新型コロナウイルスの影響により数多くの試合が中止・延期になっています。また、練習場も閉鎖されエリートアカデミーのいつもの生活とは一変し自宅でのトレーニングのみになりました。

私は、この生活の中でいかにJOCエリートアカデミーという場所が競技生活を送る上で整った環境なのかを実感しました。今は、自宅で出来ることを可能な範囲でやっているのですが物足りなさを感じています。この状況が落ち着いて、元の生活に戻った際に衰えがないように日々のトレーニングを積み重ねていこうと思いました。また、このような時でも帰りを迎えに来てくれ、食事を作ったり一緒にトレーニングをしてくれてた両親に言葉に表せないほど感謝の気持ちでいっぱいです。この気持ちを結果で伝えられるように今まで以上に努力し、進化できるようにしていきます。(4/25)

【小塩 遥菜 (中3:卓球)】

私はこのような状況になって改めて、練習や試合が出来るのは当たり前ではない事を実感しました。練習が出来る環境に感謝し、また試合が出来るのであれば一生懸命プレーしたいです。また、卓球だけでなく、学習面でも自分に出来る事をしっかりやっていきたいと思います。

この状況を後ろ向きに捉えず、今自分に出来る事を自分なりに見つけ出し、頑張っていきたいです。そして、この状況が治まり、大会に出場出来たときにはファンの方々に元気な姿でプレーしている所を見せられるように頑張りたいです。(4/22)

【野田 慶一郎 (中3:アーチェリー)】

一体誰がこんな大変な事態になるか想像したことでしょうか。世界中で猛威を奮っているコロナウイルスは自分から沢山の物を奪っていきました。試合、練習場、進級したての学校。特に試合に関しては複雑な気持ちでいっぱいです。去年の7月、3位という結果に終わった全中を踏まえ、「もうあんな思いはしたくない」の一心で1年間練習してきましたが、中止となった今、悔しさ 虚しさ 色んな感情が溢れ出てきます。ですが、今自分にできることは何なのか、限られた環境でどのような練習をするかを、しっかり考えてこの事態を乗り切りたいと思います。(4/21)

【吉田 アリヤ (中2:レスリング)】

今、世界では新型肺炎コロナウイルスという感染症が流行っています。僕が目標にしていた全国中学生選手権がなくなってしまいました。そのため練習する気が失せてしまい、今年も目標も達成できなくなってしまいました。ですが、11月の選抜に向けてまた頑張っていきます。

元所属のクラブは、まだ練習をしていました。なので、もっと強くなり先輩たちについて行けるように練習をしています。コロナにかかるとスポーツのパフォーマンスが低くなってしまいますので、しっかりとコロナ対策をしていきたいです。そして、家族だけでも対策するように声をかけていきたいです。(4/21)

【高根澤 虎白 (中2:レスリング)】

私はNTCが閉鎖になり、家に帰るなんて思ってもいませんでした。新型コロナウイルスは今も流行っており、いつ終わるのが僕には分かりません。私は試合のことで不満があります。私は年に2回しか試合がありません、年に2回の試合が1回になるのはとても残念な気持ちでしたが、気持ちを切り替えて次の試合に頑張ろうという気持ちになりました。ですが、新型コロナウイルスはまだ流行っているため、年にあと1回の試合が無くなるのかがとても心配です。私は、試合があると信じて今は家でトレーニングをしています。そして、試合がありましたら、しっかりと優勝できるように頑張ります。(4/25)

【大田 楓子 (中3:アーチェリー)】

私は入寮してから10日間過ごさせてもらい、コロナウィルスの影響で帰省することになりました。私にとってとても長い10日間でした。緊張すること、学ぶこと、多くありました。そして、帰省してからは学んだことに取り組み続けることを大切にしています。どうしても練習するのは自宅が中心になってしまいます。それでも、やるべきことに集中し、持続して取り組むことでこれからにつながっていくと思っています。なので、この帰省期間を自分にとって充実したものにします。(4/23)

【内田 颯夏 (中2:レスリング)】

私は9日間NTCで生活をしました。9日間しかNTCにいませんでしたが、早く戻ってレスリングがしたいという気持ちが日に日に高くなっています。私はレスリングが大好きです。ほぼ毎日練習していたレスリングが急に出来ないとなると悲しいだけでなく練習が出来ない悔しさ、早く練習したいという気持ちが日に日に高くなってきています。こう言った気持ちになれるのは自分が日々レスリングをすることが出来ているからだと思います。このありがたみを忘れずにこれからもレスリングをしていくことが必要だと思います。NTCで生活出来ると言う事や、レスリングが出来る事など全てのことに感謝し、レスリングが出来るありがたみを感じながらこれから頑張っていきたいと思っています。(4/25)

【松岡 天丸 (中2:アーチェリー)】

今、僕の状況は全日本中学生大会がなくなり、アカデミーでも慣れてきた時に帰省になってしまいました。練習でもモチベーションが上がらませんでした。

でも自分の夢の僕の夢はオリンピックで、金メダルを取る事を考えると、今できることをしたいと思いました。今は良い環境下で練習することは叶いませんが、人として少しでも外出を避けたり、新型コロナウイルスを少しでも広めないようにしていきたいです。(4/23)

【松島 輝空 (中1:卓球)】

僕の夢はオリンピックで金メダルをとることです。

今思うことは、大好きな試合が新型コロナウイルスのえいきょうで中止になり、さらに世界ランキングを上げるための試合も無くなってしまったことが残念です。

しかし、それはみんなも同じ条件です。今度、いつ試合があってもいいように準備します。目標に近づくために、体調をととのえ、1日1日無駄なく練習をしていきます。(4/25)

19' 年度卒業生

遠藤拓人(水泳/飛込)

アメリカ・ミズーリ大学へ進学決定

遠藤拓人君(7期生)が今年9月にアメリカのコロンビア市にあるミズーリ大学へ入学することになりました。

遠藤君からエリートアカデミーでの生活を振り返っての御便りが届きましたので紹介します。

『私は6年間のアカデミー生活の中で良かったことが2つあります。

1つ目は、他の競技の同年代のトップレベルの選手達と練習や生活を共にすることによって、高いモチベーションで練習できた事です。練習で思うようにいかない時、テンションが下がっていたりする時もありましたが、沢山の仲間が周りにいたお陰で、自然と自分も頑張らなければいけないという気持ちになる事ができました。

2つ目は、様々な大人の方と出会えたことです。トレーナーさん、栄養バランスを考えてくれる栄養士の方。多様な職種の方々との関わりの中で、その方がどのような道を辿ってきたのか、その人がどのような強みを持っているのか、など様々な話や意見を聞いたことによって、自分の考え方や‘やる気’につながりました。

JOCエリートアカデミーにきて本当に良かったと、卒業した今だからこそ、より感じます。

私は今年の9月から正式にミズーリ大学へ進学が決まりました。これから新しい環境に変わってもエリートアカデミーで経験した事を忘れずに、人間力を活かし、目標に向かって進んでいきます。』

教育プログラム始動

教育プログラムが6月18日(木)から始まりました。

例年ですと5月から実施されている教育プログラムですが、新型コロナウイルスの影響で1ヶ月半遅れのスタートとなりました。

英会話は、中学生は対面式での授業を行っています。先生にはフェイスガードを装着していただいております。

高校生はOnlineでの授業でした。初めての試みにも関わらず、生徒達はクラスへのログインをはじめ、先生との会話など、スムーズに行っていました。

課題としては、隣のパソコンとの音声が重なり、聞こえにくい事があった。という声などの意見が上がりました。

次の授業からはイヤホン/ヘッドホンを持っている生徒には持参してもらい、パソコンとパソコンの距離をより取るなど、対応をしています。

言語技術は、大研修室を3つのエリアに分け、窓を開け、先生方はマウスシールドを装着して授業を実施。

言語教育も中学生達自ら机の配置を変え、距離を保つ意識を確認するなど、新しい生活様式が体に馴染んできたことを体現していました。



公益財団法人 日本オリンピック委員会

JOCエリートアカデミー事業



〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1

味の素ナショナルトレーニングセンター

TEL: 03(5963)0355/FAX: 03(5963)0356

《生徒全員に書いてもらいました作文、今回は中学生分を掲載させていただきました。》

JOCエリートアカデミーだよりは以下のHPでもご覧いただけます。

<http://www.joc.or.jp/training/ntc/eliteacademy>